

氏名	藤本 剛
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 4164 号
学位授与の日付	平成19年3月23日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Change of Clinical Characteristics of Ulcerative Colitis in Japan; Analysis of 844 Hospital Based Patients from 1981 to 2000 (日本における潰瘍性大腸炎の臨床的特徴の変化；1981年から2000年までの病院通院患者844名の解析)
論文審査委員	教授 田中 紀章 教授 西堀 正洋 助教授 四方 賢一

#### 学位論文内容の要旨

日本では潰瘍性大腸炎患者数は急速に増加しつつあるが、その臨床的特徴についての報告は少ない。我々は日本人の潰瘍性大腸炎患者における臨床的特徴と発症年代別変化を調査研究した。1981年から2000年の間に潰瘍性大腸炎と診断された患者を登録しその臨床的特徴を解析した。臨床的特徴の発症年代別の変化、例えば、発症年齢、性別の分布、重症度、罹患範囲、臨床経過、ステロイド治療の有無について検討した。全844名の患者が登録され、男性431名、女性413名、発症年齢の中央値は34歳であった。軽症、直腸炎型の患者は30歳以下での発症患者より60歳以上での発症患者で有意に多かった。高齢発症、男性、軽症、直腸炎型、初回発作型、非ステロイド治療は1981年から2000年の間に増加傾向を示した。近年の日本人潰瘍性大腸炎患者に特有の臨床的特徴と年代変化が示された。我々のデータは未だ増加しつつあるアジアの潰瘍性大腸炎患者の臨床的特徴を理解する上で有益である。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、日本人の潰瘍性大腸炎患者における臨床的特徴と発症年代別変化を調査研究したものである。

1981年から2000年の間に潰瘍性大腸炎と診断された患者を登録し、その臨床的特徴を、発症年齢、性別の分布、重症度、罹患範囲、臨床経過、ステロイド治療の有無について検討した。全844名の患者について調査した結果、発症年齢の中央値は34歳、高齢発症、男性、軽症、直腸炎型、初回発作型、非ステロイド治療は1981年から2000年の間に増加傾向を示したが、軽症、直腸炎型の60歳以上での発症患者で有意に多く、近年の日本人潰瘍性大腸炎患者に特有の傾向が示された。

本研究は近年の日本に於ける潰瘍性大腸炎患者の臨床的特徴を理解する上で有益であり価値ある業績と考える。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。